

I - C - 25 神秘湯の気管支喘息に対する効果の検討

国立小児病院アレルギー科

○椿俊和 坂口直哉 内山宏幸 石津博子 国吉賢 海老澤元宏 秋本憲一 飯倉洋治

【目的】 気管支喘息の治療に多数の漢方薬が使用されているが、中でも神秘湯の喘息発作の予防効果はよく知られている。そこで今回我々は、中等症以上の気管支喘息児に対してツムラ神秘湯を使用し、運動誘発性喘息に対する効果と臨床症状の変化について検討したので報告する。

【対象】 対象は国立小児病院アレルギー科に通院中の7歳から15歳までの気管支喘息児8名（男3名・女5名、平均年齢 10.3 ± 1.0 歳）で全例が中等症以上であった。また、慢性気管支炎・肺気腫・気管支拡張症を合併している者、肝臓・腎臓・心疾患を有する者、他の漢方薬や経口ステロイド剤を服用している者は対象から除外した。

【方法】 観察期間を2週間、投薬期間を12週間とし、その間の臨床症状の変化を喘息日誌から検討した。また、観察期間と投薬終了時点で運動負荷テストを行い、呼吸機能の変化を検討した。全期間を通じてそれまでの治療は変更せずに行った。

【結果】 運動負荷による基礎値からのFEV1.0の低下率は、神秘湯投与後には観察期間と比較して運動直後および運動5分後で有意な抑制効果が認められ（それぞれ $P < 0.05$ 、 $P < 0.01$ ）、運動15分・30分・60分後では、低下率の抑制傾向がみられた。また、発作点数に関しても有意な改善が認められた（ $P < 0.05$ ）。

【結論】 神秘湯は、気管支喘息の症状改善に有効であり、また運動誘発性喘息を有意に抑制した。